

言葉と人権 ⑤

傾聴、共感、メタ認知

◆ 言葉に着目した人権教育においては、相手の気持ちや場の状況を考えて言葉を選び、コミュニケーションを交わすことができる児童・生徒を育てたいと考えます。

◆ そのため必要になるのが、傾聴、共感、メタ認知です。

◆ 相手の話を先入観をもたずに丁寧に聞くことは、人権尊重の理念である「他の人の大切さを認める」ことにつながります。

◆ 共感をもって話を聞き、相手の立場に立って物事を考えることは、思いやりの心の現われです。

◆ 自らの思考や発話を客観的に捉え直すこと、すなわちメタ認知を働かせることは、人権尊重の理念に照らして自己を見つめ直すことになります。

メタには高次のという意味があります。メタ認知とは、一度認知したことを、より高い視点から再び認知し直すことです。児童・生徒がちょっと立ち止まって、「本当にこれでよいか。」と内言（つぶやき）を発するとき、メタ認知が働きます。

- 相手の言葉に激する寸前の自分がある。ちょっと待て。
- 自分がいま発しようとしている言葉。相手は、どう受け止めるだろうか。
- 友達に安易に同調しようとしている自分。本当にそれでよいか。

